

刊夕 日一廿月六

常磐每日新聞

定額 一月五拾圓 三月十五拾圓 半年三十拾圓 一年六十拾圓
 廣告料 五號十二字 第一行 金五拾圓
 日曜 祭日 日休 日休
 發行所 常磐每日新聞社
 印刷所 常磐每日新聞社

人生行路難の打解と孝道の作興

麻生 正 藤

(八)

斯様に親が純眞の愛情をもつて子を育てると言ふのが所謂親心である。此の親心は親自身が自力をもつて意識的に養ひ育てたものでなくして、天より授けられた所の人間の親の、尊い美しい、聖い生具な共有特質である。勿論人間以外の動物間にも親子の愛情の存することも、見逃す可からざる顯著の事實として、古から注目され、高調されて來て居る通りである。されど特に人間の親に於ては、斯の如き純眞の愛情をもつて子供を育てると云ふ性質が天から賦與されて居るのである。之れ即ち所謂育兒本能、或は兩親本能なるものである。此の親の本能、即ちこの親たるもの、愛兒心は天より與へられたものであるとすれば、天の心即ち父母の心となつて表現したものであると言へるのである。それ故に支那の學者の言葉にも、「父母天地心、即ち父母の心即ち天の心である」と言つて居るが眞に明言であると思ふ。

斯様の次第であるから、兩親が子を愛し、子が兩親を愛するのは、自然の人間道である。而してそれは宇宙の根本として實在して居る所の絶大絶妙な靈力から授けられたものである。處が此の宇宙の根本實在は即ち儒教の天であるが故に、親心即ち天心であると言へるのである。之を基督教風之言へば、即ち神の心であると言へるのである。又佛敎流にては、佛の心であると言へるのである。兎に角宇宙の根本には、絶對なる宇宙心とも言ふべき力がある。而して此の宇宙心が森羅萬象の内、最も完全に自己を表現して居るものが即ち人間の本性であつて、此の本性の中で最も尊いものが愛である。「宇ちゆうの森羅萬象の内にて、最大なものとは人であり、人の内には遠道などして足の疲れた時は酒精かアムモニヤ水で足の裏を擦ると爽やかな感じがして早く治る。」

ノート

て最大なものは愛である」と、グラモンドの言つたのは明言であると思ふ。而して此の尊い宇ちゆう心の表現である所の愛が子に對する親の愛、親に對する子の愛として表現されて居るのである。それ故に、その點

から考ふれば、親を愛すると言ふ事は、即ち宇ちゆうの根本生命を愛する事である。若し此の宇ちゆうの根本生命を神と言ふことが出来るならば、即ちそれは神を愛する事であると言へるのである。

- 明日の献立
 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
- 【朝】みそ汁—もろこしだんご—さくらえび
- 【晝】ビーフステーキ—牛肉粉ジャガ芋
- 【晚】にしめ—はんぺん—さやえんげん

然るに、親を愛すると言ふ事の内には、親の親たる所以の尊い、聖い誠心を自分の心とすると言ふ事柄が含まれて居るのであつて、決して親の氣まぐれや、道を脱した心を心とするのではない。それ故に、若しも親が間違つた言行でもした時は、親が宇ちゆうの心に立ち歸る様に誠心を籠めて祈り求むる事が、子として本當に親を敬愛する道である。さればとて、親が間違つた行為に出でた時には、親を惡み、親が無慈悲の行為を子に對して營む時には子は親を怨み、尤めてもよいと言ふ事は毛頭ない。親が不善な場合には、益々誠心を盡して親を愛するの

子たるものの純情の流露である。それは恰も不良の子供に對して、親の子に對する純情が益々強く流露するのと同様である。

平島野
 堂前易斷
 町一前所
 地定所象

二十日己未五黃佛滅除、ク努力スル時ハ遂ニ目的ヲ達ス【二】病氣怪移轉ノ心配アル日家内ニ風波ノ起ラヌヨウ【三】慢心ヲ起シテ猛進スルト階段ヨリ落テ怪俄ヲスル慎ミ【四】綠營業取引縁談ニ奔走ノ念起ルモ總テ約束ハ明日ニナサイ【五】病氣移轉又ハ遠方ノ友知人ノ心配ノアル日ナレバ萬事ニ注意【六】金談ノ苦勞アルト雖孫孫以テ行ハタ方ニ調フ【七】赤金談カヨリ破談トナルハ婦人ニ注意【八】病氣紛失盜難怪俄ニ注意シテ理狀維持カ徳【九】營業ハ好都合ナルモ火災眠病ト印形書附ニ注意ナサイ【米相場及株ノ高底ハ特ニ見テ上ゲマスカヲ御來所ヲ乞フ】

涼しい……

麥一文字帽子

¥35.00

ツルヤ

電一四〇

看護婦急派の求めに應じます

平町南町
 平看護婦會
 電話三〇七番

耳鼻咽喉科専門

大和田醫院
 平町南町
 電話一〇七

外花柳科専門

木村外科醫院

自炊入院の便あり
 平町五丁目橋際
 電話三〇九

中村齒科醫院

平町鍛冶町七

木炭代用この上のない經濟の
 徳用な豆炭

壹袋正五貫目入金 八十錢也
 御注文次第御届ケ申シマス
 三丁目(電話六六三番)
 磐崎屋酒店
 一丁目(電話五九六番)
 菅本武雄商店
 白銀町(電話二九九番)
 水野氷店
 六丁目
 矢吹石炭商店
 平町前(電話三七番)
 阿部石炭商店

◎特約店募集致シマス

阿部石炭商店

外科

門專 X
 科線光
 上田外科醫院
 平町南町
 電話一二九番

小兒科。内科

特ニ乳幼兒ノ健康相談ニ應ズ。
 平町 ねずみ坂
 渡邊醫院
 電話一六一番

強盗を協力して逮捕

刑事協會最初の民間表彰者

石城郡好間村大字中好間字河原子二四植木職木田孝平さんと長男の昌平さんは強盗犯人逮捕の功に依り本縣刑事協會創立以來最初の民間表彰者として今回金一封宛及び表彰状を贈られた。事件は當時所報の如く去る五月廿二日夜石城郡内郷村字町田居住無職島新

被告席の樗木

思はず泣く

疑獄公判の續き

昨報小名濱築港疑獄事件の辯論續行公判は山野邊辯護士に次いで長岡擔當門傳辯護士の辯論に移り三百圓及び千五百圓の提供に關しては長岡は全く相談に與らず事後に於て割り前として支出したものであり又暑中見舞名義の下に百圓を贈つたのは當時長岡が病氣であつた關係上全然知らなかつたのだから無罪の判決を望むと述べ、事件の中心人物轉

身頼りない老人

久保町地内で行倒る

今朝午前六時頃平町久保町地内道路に行倒れとなつて

父兄に希望

津田校長から

既報平第二小學校にては去る十七日父兄懇話會を開き津田校長より父兄に對し左記希望を述べた

- 學校教育の方針に就いて作業を重ざる事
- 生活指導を重視せん事
- 精神教育に留意しつゝあ

違反事件が

發電所に飛火か

本日平署で十數名取調

平鐵道方面の選舉違反事件一段落を告げた觀ある處今度は突如警署の發電所に飛火せるものゝ如く本日十數名が平署に引致され目下嚴重取調中

高商演奏

來月一日に

福島高商音樂部マンドリンハーモニカ團にては來る七月一日來平、午後七時より藤田女學校に於て演奏會を

明日のラジオ
廿二日
報豫氣天
今晚も明日も北東の風晴曇半す

今晚の部

- 後六、〇〇 管絃樂 東京ラヂオオーケストラ
- 後七、三〇 趣味講座「御家騒動と川柳」井上劍花坊
- 義太夫さはりの夕
- 後八、〇〇 「野崎」素昇、巴住
- 後八、一四 「鈴ヶ森」綱龍

明日の部

- 綱助
- 後八、二八 「酢屋」靜香、新次郎
- 後八、四三 「先代萩」清糸仙平
- 後八、五八 「酒屋」染登、猿幸
- 後九、一三 「帯屋」團司、小住
- 後九、三〇 時報 ニュース 氣象通報 番組豫告

難波漁船の

乗組員を救助

十九日午後八時頃石城郡江名町字長崎海岸を金華山に向け航行中であつた千葉縣銚子市門濱水谷藤吉所有水谷丸(十九噸)四十馬力は濃霧の爲め進路を誤り坐礁したので救助信號に依り江名消防組員が出動平正喜船長以下乗組員十二名を無事救助した

大瀧根山

洞窟視察

警城高等女學校職員有志は來る二十五日平發五時四十分にて大瀧根山麓石灰岩洞窟を視察に赴くと

身重女給が

服毒自殺未遂

石城郡小名濱町字中明神町一八カフエー大纏事赤津ナカ方女給松村ミチ(三)は去る十九日午前九時頃同家二階で消毒用の石炭酸を多量に嚥下して自殺を計り苦悶中を家人に發見され應急の手當を受けた結果生命は取止めたが原因は妊娠三ヶ月

蓄音器

平第二校へ

平町愛國婦人會員有志大和田コト、關内ミナ、桑原ナカ、青天光子、市原藤子、

本一枝

- 後六、〇〇 子供の時間 お話「面白い印の作り方」北川福亭
- 後七、三〇 講演「化學變化の速力」東北帝國大學教授理學博士 箕作新六
- 後八、〇〇 漫談 悟道軒圓玉
- 後八、四〇 吹き寄せ 柳亭春樂
- 後八、二〇 小唄「待ちわびて」外唄堀小三喜三味線 堀小三久外
- 後九、〇〇 長唄「教草吉原雀」唄 杵屋勝若外

平職界紹介所報告

- 回人を求める方
- △外交員 二十五以下 高卒 月十圓(平町某)
- △女中 四十迄 高卒 月五圓位(平町某)
- △豆腐賣子 三十迄 尋卒 賣上の二割給す(平町某)
- △店員 十七才 尋卒 給料面談(平町某)
- 回職を求める方
- △雜夫 五十八才 高卒 給料面談(平町某)
- △電工見習 十七才 高卒 給料面談(内郷村某)
- △電工見習 十八才 高卒 給料面談(平窪村某)
- △文撰工 二十二才 高卒 給料面談(平町某)

幕末剣術

【禁轉載上演及映畫】

第三百七十席

近藤 勇の最期

悟道軒圓玉演
近藤 勇の最期

勇の強膽

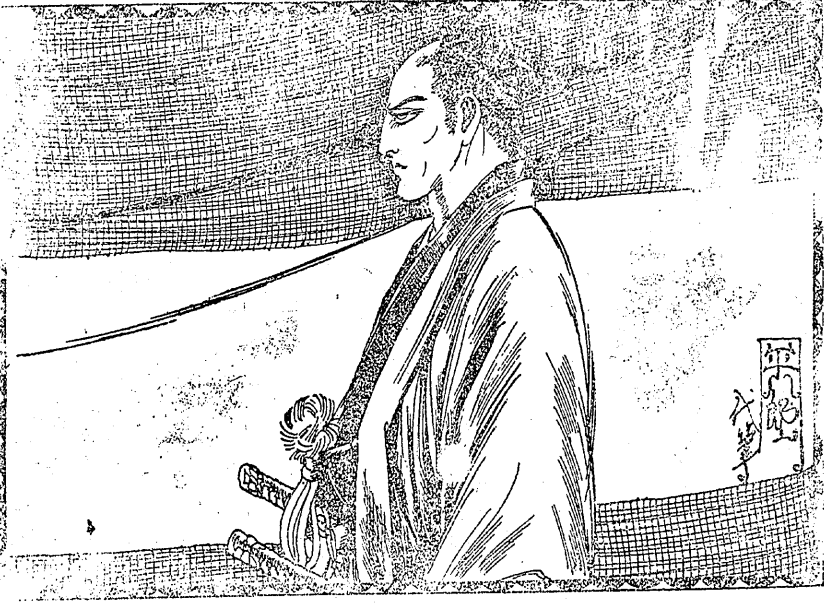
士「何にしても一日も早く當所を引き拂つて奥州に参るが得策である」
大「それにしても軍用金及び兵糧を調達したさねばならぬ、此の邊の富豪を統いて金を出させ、また米を集めることに致さう」

などと話をしていると
○「板橋に滞陣いたし居る香川敬三殿よりの使者が見えましてござる」

と部下の者が報告した、大久保は是を聞いて
大「お、参謀よりの使者か、是れ土方使が参つたぞ」
士「来たかな、油断をいたすな、官軍には曲者が多い既に攘夷……外國人打拂ひを口實にして幕府を仆した官軍共、其の使として用心をなさい、何を申すか定めし甘いことを申して貴公を釣りに出すことと思ふ」

是は名言です、幕府を倒した有力者は嘘ばかり吐いて居る、攘夷などは萬に一つも實行の出来ぬことを知りながら是を賣り物として幕府を散々な目に會はして天下の實権を握るとケロリと此の事を忘れて外國人……

を握り、文化を輸入するに苦心してゐる、それですから狸が多い、大久保は早速使者に會ふて其の用事は何かと聞くと、使者は大久保に對ひうやくしく一



勞に存する、して何う云ふ御用向か」
○「イヤそれは参謀が貴公と面會いたして申し談ずることにございます、決して士道に背くが如きことは致しません、其の儀については御懸念なく御越し下さる様にとのことにございます」
大「承知いたした、早速参るであらう」
○「然らば御入來をお待ち申すでございませう」
愆う云つて使者は戻りました、後に土方歳三が

禮いたし
○「参謀香川敬三よりの使ひにございます、御協議申し度きことございます故板橋の本營まで御越し下さらば有難きこと、参謀は申し居ります」
大「それは、お使者御苦

士「近藤、彼の使はおかしいな、貴公を引き出して虜にいたす所存であらう、まづ行かぬ方がよい」
大「イヤ参ると約せし上は行かざるまい、敵に詭計があるにせよ、まづ参つて何んか、を云ふかそ

れを聞いて、こいつ怪しいと見たならば、吾また詭計を用ひて引き揚げることに致す、おめ、敵の捕虜になることもあるまい」
士「さうでもあらうが、おかしいな、油断はならんぞまた行くならば腕の出來た者を七八人連れるがよろしからう」
大「イヤそれは叶かん、多くの従者を引き連れ参ると敵は油断をいたさぬ、それ故益々疑を深くする、愆う云ふ場合は一人で参るがよろしい」
士「行くはやめる、危険だぞ」
再度止めたが近藤の大久保は聞き入れない、そこで只一人馬に乗つて流山の陣所を出て板橋に來た、もう玆に來ると日も暮れてゐるかゝりを焚いて官軍の番兵は嚴重に固めて居ります、此の折香川敬三の許に居つた加納内匠が、幕張裡より是へ参る大久保を見てゐる、是は近藤が但し其の人でないかを見定める爲、加納は近藤の部下に居た者ですから一目にて其の人か其れとも他人かといふことは判る、近藤は香川の部下に加納内匠が居やうとは思はない、それですから近藤と云ふことは知れまいと思ふて來たやがて馬より下り
大「番士の方に申し入れる拙者ことは大久保大和にござる、先刻お使者を寄せられたに就いて推参いたしました此の事よろしく御披露あれ」

○「暫くお控へ下さい」と番士は内に入る、其の節幕張の内からチーツと見てゐた彼の内匠。

淋病 **梅毒**

淋病 皮膚病 婦人病
梅毒 胃性病 腸性病

門專 院醫科 院醫科

十二指 陽虫病

七〇一話電町南平

是非御利用を

▶迄時九後午間時業營◀

り通岸河目丁四町平

店質井三

【番六〇六話電】

科人婦・科外

院醫坂井

町田町平

番九五五話電

平新川町十九

外産婦人科 **木村病院**

電話一六四番

院長 木村寅次郎

婦人科 醫學士 内木宗八

内臓外科 整形外科 泌尿器科

吸入用酸素純度 99%

度量衡 器量計

モノサシ 体温器
マス 寒暖計
ハカリ

●秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス

●寫真材料一式販賣致シマス

關内藥局

電話四〇番

玉屋洋品店

平町田町通電話六五六番

吉田眼科病院

平針通町電話六八番